



『少年時代』

作詞 井上 陽水
作曲 井上 陽水
平井 夏美

夏が過ぎ 風あざみ
誰のあこがれに さまよう
青空に 残された
私の心は 夏模様

夢が覚め 夜の中
永い冬が 窓を閉じて
呼びかけたままで
夢はつまり 思い出のあとさき

夏祭り 宵かがり
胸のたかなりに あわせて
八月は 夢花火
私の心は 夏模様

目が覚めて 夢のあと
長い影が 夜にのびて
星屑の空へ 夢はつまり
思い出のあとさき

夏が過ぎ 風あざみ
誰のたそがれに さまよう
八月は 夢花火
私の心は 夏模様



問い続ける力を育てる

校長 髭白 梨香

子どもたちの心にふと生まれる「どうしてだろう」「なぜこうなるのかな」という問いは、学びの原点です。本校では、この価値ある問いを自ら見つけ、その問いを手がかりに夢中になって追究し続ける子どもを育てたいと考えています。

問いをもつことは、単に疑問を抱くことではありません。自分の感じた違和感や気付きにそっと向き合い、「もっと知りたい」「確かめたい」という思いを学びへと変えていく力です。追究の過程でまた新しい問いが生まれ、学びはさらに深まっていきます。授業だけでなく学校生活のあらゆる場面で、子どもたちが自分の内側から問いを生み出せるよう、私たちは日々働きかけています。「今の行動は本当に良かったかな。」「相手の立場に立つと、どんなふうを感じるだろう。」「学年（学級）や学校のために、自分は何ができるかな。」こうした問いを投げかけることで、子どもたちの心に価値ある問いが芽生え、やがて自ら考え、行動する姿へとつながっていきます。問いが子ども自身のものになった時、子どもたちは驚くほど力強く、しなやかに学び続けます。夢中になって追究する姿こそ、学びの中で最も輝く瞬間です。

横浜市では今年度、「全ての子どもが自らの可能性を見い出す学びの実現」をテーマに教育課程研究協議会が行われました。子どもたちの思いを丁寧に育み、自ら学びを進めていける環境を整えることが、学校の大切な役割であると改めて感じています。

本校でも、子ども一人ひとりの良さや可能性が自然と表れる場面を増やし、仲間と学び合いながら成長していけるよう、日々の教育活動を進めています。子どもたちが「自分にもできる」「もっと学びたい」と感じられる毎日を、これからも丁寧に育んでまいります。そして、問い続けるのは子どもたちだけではありません。私たち教職員もまた、「子どもたちのために今できることは何だろう」「よりよい学びのために何を見直せるだろう」と自らに問いかけながら、子どもたちの成長を支えていきます。

横浜は天候に恵まれた夏休みとなりましたが、その一方で、熊本県では大地震が発生し、千葉県では豪雨による甚大な被害が生じました。犠牲となられた方々に心よりお悔やみ申し上げますとともに、被災された方々、そのご家族、関係者の皆様に深くお見舞い申し上げます。一日も早く、皆様の日常が取り戻されますことを心よりお祈り申し上げます。